今回は12人が行い当局の考え方を質問しました。
インターネットによる生中継の映像配信を行いました。

市民の安全確保のために防犯カメラの設置増強を

笹原恵子

問 市内の犯罪件数と防犯カメラの設置状況は。

答 市内刑法犯罪数は令和4年度が200件、5年度が202件、6年度が246件。市の防犯カメラ設置事業費補助金を活用して区が設置した台数は令和6年度までに37基。

問 公共施設などへの設置状況と今後の予定は。

答 公立幼保こども園と小学校は設置済、中学校は計画している。市役所の窓口業務トラブル抑制のため、あやめ会館を含む市内全庁舎と中央図書館・韮山図書館窓口に設置を検討中である。

問 設置事業費補助金は各区からの申請によるが、作成書類は多々あると聞いている。手続きを簡略化できる部分はないか。

答 設置台数を各区年間2台までとしており、申請の仕方などについてはお手伝いさせていただいている。

若者の意見を市政に反映する仕組みの構築を

問 8月開催された「こども議会」の結果はどのようで、今後の予定は。

答 市内在住在学の小中学生13人のこども議員が提言書を発表、市長と教育長が講評を述べた。市制施行20周年記念事業であるので今後実施予定はない。

市制施行20周年記念事業「こども議会」

問 私は伊豆中央高校の生徒と市長との意見交換会を企画したが、その中での自習室や居場所が欲しいという提言に対し、高齢者温泉施設の中で高校生の自習室に変更していく形が示された。今後更に若者たちの意見を聞く場を設ける考えはあるか。

答 定期的に行うことは考えていないが、要望があれば検討したい。

問 表明した提案を施策に反映することが重要であり、継続的・横断的取り組みが求められる。施策改善に活かす仕組みを構築してはどうか。

答 意見の内容を各担当課で精査し、事業化等の検討を行っていきたい。

耕作放棄地と多面的機能支払い交付金について

山本昭彦

問 浮橋・原木・大仁南部地区で活用する多面的機能支払い交付金とは。

答 高齢化や離農などで農業者が減少していく一方、既存の農業施設は老朽化していくため、地域の人を含めて農地や農業施設の維持管理の負担を軽減し農村維持を図ろうとするもの。

問 耕作放棄地1229反のうち農振農用地（青地）に占める面積は。

答 農振農用地（青地）の耕作放棄地は501反で、中山間地が多い。

問 担い手不足や後継者不足解消に農地集積が有効と考えるが。

答 改正農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画が本年3月に完成した。この計画書では、水稲と施設園芸のエリアに区分し、水稲エリアは1区画3反の規模を推進。また、防災減災の強化を目的に、畦畔の高さを30㎝で計画。新区画3反の田んぼダムの整備を進めると、降雨時では、現在の6倍の700㎥の雨水貯留効果があるものと期待している。今後、担い手農家や関係機関と意見交換を重ね進める。

空家等対策計画について

問 平成30年度の計画と比較して空家の対象数の違いについて。

答 当初計画策定時の管理不全とされた空家及び市民から苦情のあった空家を調査した結果、管理不全とされる空家は50戸で、建築損壊の危険性を帯びている建物は6戸と判断した。

問 令和4年1月に完了した行政代執行後の管理はどのようになっている。

答 行政代執行に要した費用が納入されないため、当該土地を差押え、令和6年10月に換価した。その後の管理は落札者が行っている。

荒廃農地対策も空き家対策も適切な管理がなされていない私有財産。空家対策では、強制執行が可能だが、荒廃農地対策では強制執行ができないことから、国の施策が必須となるため、関係機関に積極的な働きかけが必要。

民家に近い荒廃農地
景観・環境に影響

妊産婦の医療費無料化 助成を行い、切れ目ない子育て支援を

田中正男

問 伊豆の国市は少子化対策として、子育て支援が以前より取り組まれ、令和7年度事業では、妊婦のための相談支援と経済的支援（妊娠時と出産時に5万円ずつ）を行い、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行う事業としている。

しかし、妊産婦の医療費に対する助成支援が抜け落ちている。

切れ目ない支援として、妊産婦の医療費の無料化を検討すべきではないか。

答 本市では、妊婦健診の費用の一部を助成しておりますが、妊産婦に対する医療費助成は行っていない。

県内で実施している4市などを参考に、本市における助成の在り方を研究していきたい。

改正された県盛土規制条例と市の条例で盛土の安全確保を

問 令和3年7月に熱海市で起きた土石流災害を踏まえ、「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称「盛土規制法」）が施行された。令和7年5月に改正され、県もこれに合わせ条例改正（通称「盛土環境条例」）がされた。

伊豆の国市は令和5年10月より「伊豆の国市土砂等による盛土等の規制に関する条例」が施行されている。

そこで、①市内での不適切な盛土等の状況はどうか。

②法改正、条例改正で不適切な盛土の未然防止に効果が期待できるのか。

答 ①市内の不適切盛土は現在、法改正前からの事案が5件あり、県と連携を図りながら指導及び経過観察を行っている。

②盛土規制法等の改正以降、盛土等の行為に関する事業者や土地所有者からの相談や通報の件数が増えており、早い段階で現場を確認することができていることから、法改正等による効果はあると認識している。

「静岡県の盛土規制法 概要版」の表紙

道の駅と川の駅の連携と、多目的利活用について

山口貴子

問 川と陸をつなぐ点において、まだ完成とは言えないのではないか。

答 親水階段については検討をしたが、前後が洗掘されてしまうという問題があり断念した経緯がある。現在も計画は無い。

問 川の駅の多目的グラウンドの水はけの悪さの改善は。

答 水はけについては課題として認識しており、解決策を研究している。

問 周辺の案内板の増設については。

答 わかりにくいというご意見は聞いている。改善について検討している。

問 道の駅トイレの改修については。

答 一番早急に対応しなくてはいけない事は認識している。現在すでに、所有者と協議して進めている。

道の駅女性用トイレ

問 駐車場の線が不明瞭であるが、改善の計画はあるか。

答 現状把握はしているが、まずはトイレの改修を優先的に行っていく。

問 道路状況を知らせる電光掲示板が建物の中にあり24時間見られないが改善はしないか。

答 道の駅の要件に抵触しかねない。今後改善策について検討していく。

問 道の駅と川の駅を結ぶ連絡通路が分かりにくいが改善は。

答 本年度、出入口部分については市の方で改良する計画がある。

連絡通路の出入口

問 道の駅を災害時の拠点として整備をしておく必要があるのではないか。

答 指摘の通りである。まずは道の駅の機能を整え、整備・改修を進めていく。

再犯防止のために市がすべきこと

問 現在、第4次地域福祉計画に含まれている再犯防止計画は、内容が希薄で分かりにくい。第5次策定に向けてもう少しわかりやすく盛り込むことはできないか。

答 次の第5次の地域福祉計画では書き振り等について見直していく。

今回は12人が行い当局の考え方を質問しました。
インターネットによる生中継の映像配信を行いました。

市役所窓口における待ち時間の改善について

蒲原宏幸

問 市役所手続きの待ち時間や所要時間を正確に把握するため、データ調査を進めていく予定は。

答 本年度窓口予約システムを導入予定。導入にあたっては導入前後の待ち時間及び手続き時間を計測し、効果を検証していきたい。

問 来場者が特定の日に集中する傾向を平準化する工夫は行っているか。

答 現状は実施していないが、窓口予約システムにより予約枠を設け、待ち時間を平準化していく考えである。

問 市民や職員が混雑状況の数値をわかるようにする仕組みを整備する考えは。

答 本年度導入予定の窓口予約システムで、窓口の待ち人数などの混雑状況をホームページでリアルタイムに配信し、市民が混雑を避けて、比較的空いている時間に来庁出来るように促す仕組みを整備する予定。

問 窓口予約システムやスキャナーの導入時期はいつ頃の予定か。

答 スキャナーは11月頃、予約システムは1月から2月頃導入予定。

問 導入をした場合どの程度の効果が見込めると考えているか。

答 窓口システム導入により30分の待ち時間が20分に短縮出来ると想定している。スキャナーの導入に関しては、10分の記載時間が5分に短縮できると想定している。

問 年間に市民からどの程度の件数の声が寄せられているか。

答 接客対応に職員数が追いつかず20分以上待たすこともあり、待ち時間が長いとの声を聞く。繁忙期の3月から5月には1日に10件以上、その他の期間は1週間に5件から10件程度となる。

問 市民にとって、より魅力的な空間としての市役所を目指していく方針はあるか。

答 市民が求めるサービスを迅速かつ効率的に提供することを目的にフロントヤード改革の検討を進めている。組織的な検討も進め、市民サービス向上に向けた魅力的な空間づくりに努めていく。

ユニバーサルデザイン推進とバリアフリー環境の整備について

深井利憲

問 市庁舎周辺の歩行空間整備や空間デザインに関して、段差解消・広い歩道・休憩スペース・可視案内といったユニバーサルな視点からの施策は進められているのか。

答 市庁舎周辺の道路について、広い歩行空間を確保する必要性はあると認識しているが、整備用地の確保などの課題があり、現実的に難しい状況にあると考えている。
伊豆長岡温泉を中心としたウォーカブルなまちづくりの取組として、本年度、順天堂大学静岡病院前の源氏山側のポケットパークで歩道と公園を一体的に利用できるバリアフリーに配慮した空間を整備する。

問 庁舎前バス停待合所屋根のひさしが短過ぎて、日よけの役割を果たしていないが、これについて、バス事業者側と具体的に話合いが持たれたり、何か改善の計画はあるか。

答 雨・風は最低限しのげているので、改修が必要かどうか状況を見ながら確認する。

問 庁舎正面出入り口横の障害者用スロープに現状屋根は無いが、駐車場の身障者スペースから建物へ入るまでの導線は、雨に濡れないよう屋根を設置している公共施設が多い。市としての認識・見解はどうか。

答 高低差がある中でスロープを確保しながら屋根を設けるのはハードルが高いと考えている。
庁舎建設が昭和50年代ということで、今のバリアフリーあるいはユニバーサルデザインの理念からは、欠落している部分があることは承知している。可能な範囲でできるものから順次やっていく。
可能な部分については検討していきたいが、もう少し検討・研究が必要と認識している。

伊豆長岡庁舎